

横浜市立小学校用副読本 2011年度版
わたしたちの横浜
社会科・理科・『横浜の時間』副読本



ねん ど とくてい ひ えい り かつどうほうじん ち きゅうがっこう ち きゅう こきょうしつ か か
2012年度 特定非営利活動法人 地球学校 「地球っ子教室」書き換え

もく じ 目 次

かんたい ペリー艦隊がやってきた ページ 4ページ

- ・ かんたい ペリー艦隊がやってきた！
- ・ かんたい しょみん きょうみ も ペリー艦隊に庶民は興味を持ちました
- ・ も にほんじん いんしょう ペリーが持った日本人の印象はどうだったのでしょうか？
- ・ じょうやく むす 条約が結ばれるまでに・・・
- ・ じょうやく むす にちべいわしんじょうやく ていけつ ついに条約が結ばれる！～日米和親条約の締結～

あんせい ねん がつふつか よこはまかいこう 安政6年6月2日～横浜開港～ ページ 8ページ

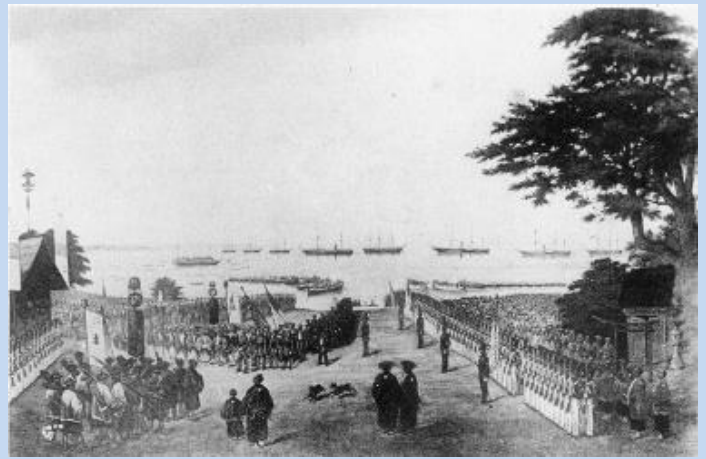
- ・ がいこく ぼうえき けつだん 外国との貿易を決断する
- ・ かながわ よこはま 神奈川か横浜か
- ・ かいこう ひ 開港の日
- ・ かいこうば よこはま 開港場、横浜

よこはま もののはじめは横浜から ページ 13ページ

- ・ つつみ いそ えもん 堤 磯右衛門
- ・ ①パン ②水道 ③牛なべ ④ガス灯
- ・ ⑤鉄道 ⑥馬車 ⑦とこや ⑧鉄の橋

あとがき ページ 19ページ

かんたい ペリー艦隊が やってきた！



「横浜史料 開港七十年記念 ペルリ提督以下横浜村上陸図」
(横浜市中央図書館蔵)

ペリー艦隊がやってきた！

1853(嘉永6)年7月、浦賀沖にペリーが4隻の船といっしょに来ました。

その7カ月あとの1854(安政元)年2月、ペリーは9隻の船でまた来ました。

金沢区の小柴沖に10日間ほどいました。その後、横浜村に上陸しました。

ペリーは日本の開国を求めました。

ペリー艦隊に庶民は興味を持ちました

人々は、神奈川の沖に浮かぶペリー艦隊に興味を持ちました。上陸した

水兵や通訳に食べ物をあげたり、話をしたりしました。



「寅三月十三日神奈川ヨリ異船ノ退帆ヲ観ル図」
(横浜市中央図書館蔵)

また、ペリー艦隊には測量の専門家や農業の専門家なども乗っていました。

彼らは測量したり、農業の機械や道具を日本人に紹介したりしました。庶民

も、武士もおもしろそうに見ました。時には手をふったり、もらった名刺を持

ち帰って名前を覚えたりしました。このような庶民や武士の行動も、鎖国をや

めるエネルギーになったのでしょうか。(ペリー艦隊日本遠征記より)

ペリーも日本人の印象はどうだったのでしょうか？

①好奇心と知識は？

読み書きがよくできます。

見たことがなくても世界の出来事を

よく知っています。

日本人はみな、好奇心が強くて外国人

と交流しようとしています。

②日本の技術は？

細かい仕事がとても上手です。

日本がこれから世界に進出すれば、

ヨーロッパの国やアメリカの強力

なライバルとなるでしょう。

③日本の女の人？

若い女性は姿がよく美しいです。

自分から行動します。まわりの人々か

ら尊敬され、誇りを持っています。



ペリー提督
M. C. Perry

「横浜史料 開港七十年記念米国使節ペルリ肖像」
(横浜市中央図書館蔵)

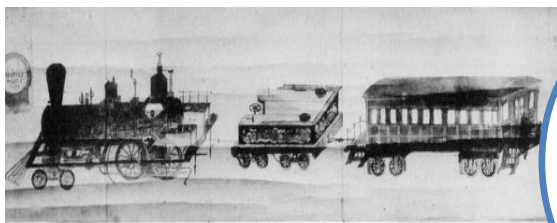
じょうやく おす

条 約が結ばれるまでに・・・

「条 約」とは、国と国の 間 で結ぶ約そく事です。ペリーは、条 約を結ぶ話し
あ よこはまむら じょうりく しょうぐん ばくふ やくにん おく もの
合いのために横浜村に上陸しました。将 軍や幕府の役人に、贈り物をしたり、
もてなしをしたりしました。日本もお礼の品を贈ったり、もてなしをしたりし
ました。

あ め り か

■ アメリカからは



「横浜史料 開港七十年記念
米国献上蒸汽車模型図」

(横浜市中央図書館蔵)

贈り物

にほん

■ 日本からは

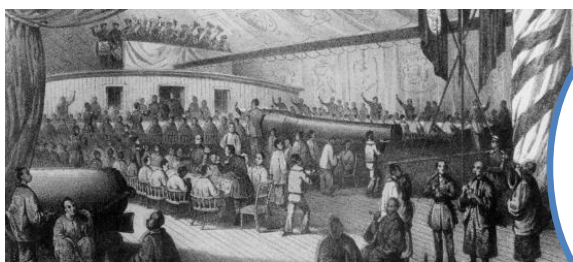


「横浜史料 開港七十年記念
横浜村応接場興行相撲並米俵搬入図」

(横浜市中央図書館蔵)

かいこく りえき つた きんだい
開国の利益を伝えるために、近代
ぶんめい さんぶつ じょうき きかんしゃ でんしんき
文明の産物（蒸気機関車や電信機
など）を贈りました。

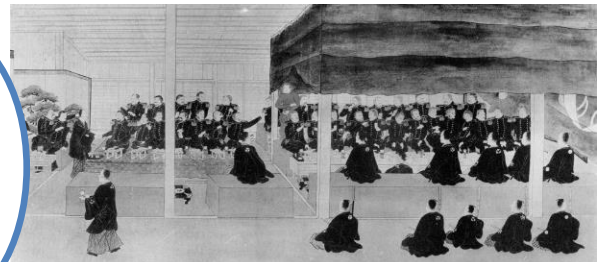
びじゅつこうげいひん こめ にわとり おく
美術 工芸品や米、鶏などを贈
りました。ペリーたちは米俵を運ぶ
りきし おどろ
力士たちに、とても驚いたそうです。



「横浜史料 開港七十年記念
ペルリ我役人をボーハタンに招待の図」

(横浜市中央図書館蔵)

もてなし



「横浜史料 開港七十年記念
横浜村応接場米使饗応図」

(横浜市中央図書館蔵)

にく さかな わいん にほん
肉や魚、おいしいワインを、日本
じん よろこ とく よろこ
人は喜びました。特に喜んだのは
ぎゅうたん
「牛タン」でした。

ひゃくしゅるいいじょう りょうり ペリー
百種類以上の料理をペリーたち
にごちそうしました。アメリカ人には
にほん あじ うす
日本の味は、かなり薄かったようです。

じょうやく おす にちべい わ しんじょうやく ていけつ
ついに条約が結ばれる！～日米和親条約の締結～

あんせいがん ねん がつようか よこはまむら おうせつじょ はな あ はじ
1854（安政元）年3月8日から横浜村の応接所で話し合いが始まりました。
がつ にち じょうやく おす ないよう
た。3月31日に条約を結びました。その内容は・・・

- しもだ はこだて かいこう みず しょくりょう ねんりょう
① 下田・函館を開港し、水や食料、燃料などをあげることに。
あめりかじん ひょうりゅうみん たす あめりか かえ
② アメリカ人の漂流民を助けて、アメリカに帰すことに。
しもだ あめりかじん がいこうかん す
③ 下田にアメリカ人の外交官が住んでもよいことに。

などでした。

ねんご にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく おす にほん
そして、この4年後に日米修好通商条約が結ばれました。そして、日本と
あめりか ぼうえき はじ ご よこはま ぼうえき ちゅうしん みなと はっ
アメリカとの貿易が始まりました。その後、横浜は貿易の中心の港として発
てん
展しました。



よこはまかいこう しりょうかん
横浜開港資料館にある
たまぐすき
玉楠の木

にちべい わ しんじょうやく いま よこはまかいこう しりょうかん
日米和親条約は、今の横浜開港資料館がある
ばしよ おうせつじょ もう おす たまくす
場所に應接所が設けられ結ばれました。この玉楠
き とき いま よこはま みまも
の木は、その時から今までずっと横浜を見守って
います。

げんざい たまくす き かんどうだいしんさい おお ひがい
（現在の玉楠の木は関東大震災で大きな被害を
う げんざい ばしよ いしよく
受け、現在の場所に移植されたものです。）

よこはまかいこう しりょうかん い
★横浜開港資料館への行きかた★

せん にほんおおどお えきげしゃ とほ ふん
みなとみらい線 日本大通り駅下車 徒歩5分

あんせい ねん
安政6年
がつふつか
6月2日
よこはまかいこう
～横浜開港～



「横浜外国役館之全図」（横浜市中央図書館蔵）

あめりか ぼうえき つよ もと
アメリカが貿易を強く求めました。それで、1858（安政5）年、幕府は

あめりか にちべいしゅうこうつうしょうじょうやく おす
アメリカと日米 修好通商 条約を結びました。その結果、神奈川（横浜）は函

だて ながさき にいがた ひょうご こうべ かいこうば おな ないよう じょう
館・長崎・新潟・兵庫（神戸）とともに開港場になりました。同じ内容の条

やく おらんだ ろしあ いぎりす ふらんす おす よくねん
約を、オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも結びました。そして翌年の

がつふつか いま がつついたち よこはま せかい ぼうえき みなと
6月2日（今の7月1日）、横浜は世界と貿易をする港となりました。

がいこく ぼうえき けつだん 外国との貿易を決断する

え ど ばくふ たいろう い い なおすけ じょうやく おす はんたい ひと
江戸幕府の大老の井伊直弼は、この条約を結びました。しかし反対する人た

ちょうてい ゆる じょうやく じゆう
ちもいました。また 朝廷の許しももらわれないままでした。この条約は自由な

ぼうえき おこな と き なか ふ びょうどう ないよう
貿易を行 うための取り決めでした。しかし、その中には不平等な内容もあり

がいこくじん はんざい さいばん ゆ にゅうひん じゆう ぜいきん
ました。外国人の犯罪の裁判ができないこと、輸 入 品に自由に税金をかけら
れないことなどです。

か な がわ よこはま 神奈川か横浜か

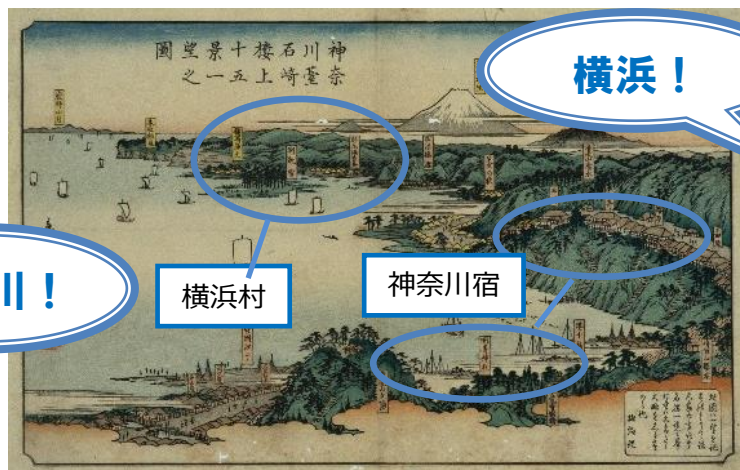
じょうやく かいこう がつふつか き かいこう ば き
条約によって、開港は6月2日に決まりました。開港場を決めるときに、
がいこく にほん ばくふ いけん
外国と日本の幕府とでは意見がちがいました。

よこはま . . . ぼうえき お
横浜？ そんないなかは貿易に向かない。
か な がわじゅく か な がわみなと ぼうえき べんり
神奈川 宿の神奈川 港での貿易が便利だ。
じょうやく か な がわ か
条約には「神奈川」と書いてあるのだから、
じょうやく いはん
条約違反だ！

がいこくじん とらぶる たいへん
外国人とトラブルがあったら大変だ！
どうかいどう か な がわじゅく はな ばしょ かいこう
東海道の神奈川 宿から離れた場所を開港
ば よこはま か な がわ いちぶ
場にしよう。横浜は「神奈川」の一部だか
じょうやく いはん
ら、条約違反じゃない！



あめりかりょうじ
アメリカ領事
はりす
ハリス



ばくふ だいひょう
幕府代表
いわせただなり
岩瀬忠震

か な がわだいしきろうじょうじゅう ごけいちぼう の ず
「横浜史料
開港七十年記念
米領事ハリス」
神奈川台石崎楼上 十五景一望之図

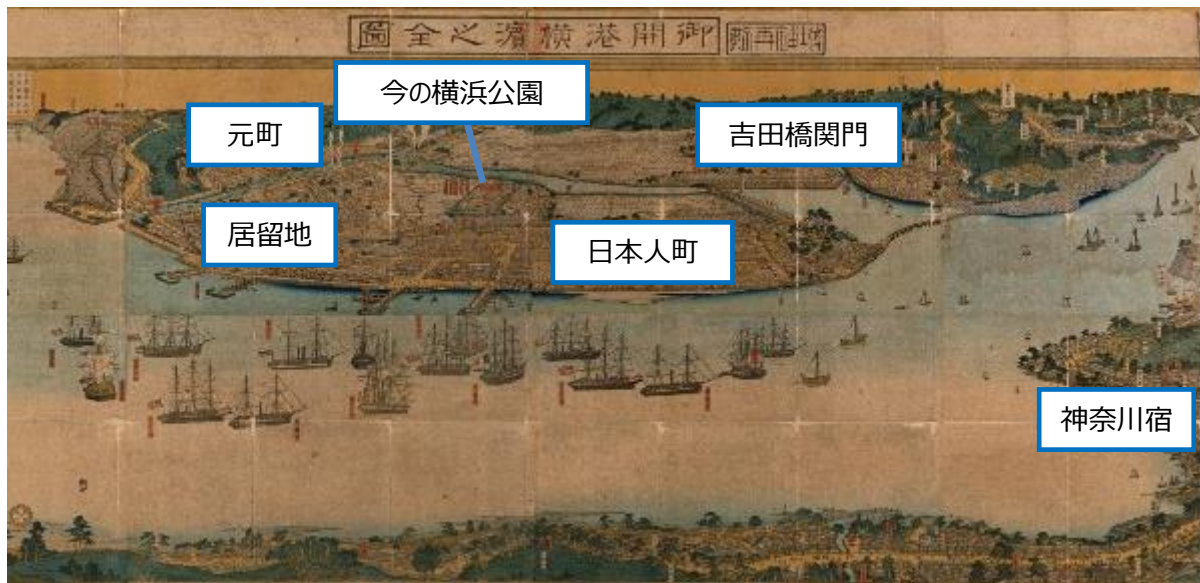
(横浜市中央図書館蔵)

かんが にほん ばくふ いけん よこはま かいこう
それぞれの考 えはちがいましたが、日本の幕府の意見がとおり、横浜が開港
ば
場になりました。

かいこう ひ
開港の日

がつついたち いま がつ にち あ め り か こう し は り す の ぐんかん み し し っ
6月1日(今の6月30日)、アメリカ公使ハリスが乗っている軍艦ミシシッ
びーごう しょうせん わ ん だ ら ーごう みなと き よくじつ かいこう ひ お ら ん だ しょう
ピー号と商船ワンダラー号が港に来ました。翌日、開港の日にオランダの商
せん し ら ーごう みなと はい かいこう ひ とく いわ ぎょうじ
船シラー号が港に入りました。開港の日には特にお祝いの行事はありません
でした。しゅう わ ねん よこはまし きゅうれき がつふつか かいこう きねん び
1928(昭和3)年、横浜市は、旧暦の6月2日を開港記念日と
き
決めました。

かいこう ば よこはま
開港場、横浜



「御開港横浜之全図 増補再刻」(横浜市中央図書館蔵)

もとまち きよりゅう ち あいだ かわ つく かわ はし かんもん つく
元町と居 留 地の 間 に川を作りました。その川の橋のそばに関門を作りました。
かんもん うちがわ かんない よ
た。関門の内側を「関内」と呼びました。

うみ み かんない ひだりはんぶん きよりゅう ち みぎはんぶん に ほんじん
そして、海から見て、関内の 左 半分は居 留 地としました。右半分は日本人
まち わ ころ かいこう はんたい ぶ し がいこくじん じ
町としてはっきり分けました。この頃、開港に反対の武士が外国人をおそう事
けん ばく ふ かんもん とお ひとびと しら
件がたくさんありました。幕府は、関門を通る人々をきびしく調べました。



「横浜異人館之図」(横浜市中央図書館蔵)

かいこう ご がいこくしょうかん よう す
開港後すぐの、外国商 館の様子
に ほんじん がいこくじん かいしよく
です。日本人と外国人が会 食を
ほうえき そうだん
したり、貿易の相談をしたりし
ています。

●こんなものもありました！ 「外国人に対するころえ書」

かいこう ばくふ よこはま り やく き ろ い ない むら やくにん
開港にあわせて幕府は、横浜から10里（約40キロ）以内の村の役人を
よ はっぴよう
呼びました。そして、つぎのようなきまりを發表しました。

- 一、外国人が買い物にきた場合は、店先で応対して、けっしてそとから見えない部屋には
入れないこと。
- 一、用事のない日本人は、外国人の店にむやみに立ちよらないこと。用事や相談がある場合には、
そとから見える場所で行うこと。また、食事にまねかれてもいけない。
- 一、外国人から品物をもらってはいけない。もし送ってきたら奉行所へ届けけること。もし、外
国人の品物が捨ててあるのを見つけたら、すぐに届け出ること。

く せい ご じゅうしゅうねんきねん か な がわく し
「区制五十周年記念神奈川区誌」より

ぜん ぶ
このようなきまりは全部で15もありました。

もののはじめ

よこはま は横浜から



堤 磯右衛門*
(1833年～1891年)

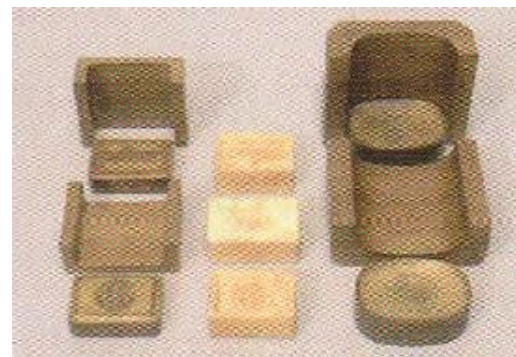
よこはまかいこう しりょうかんぞう
横浜開港資料館蔵

1859（安政6）年、横浜は開港しました。それから、日本になかったいろいろなものが入ってきました。

横浜は、「もののはじめ」の場所になりました。私は、堤 磯右衛門です。磯子村で生まれました。日本で初めて石けんを作りました。1866（慶応2）年、私は横須賀製鉄所で働いていました。私の手は、汚れていました。だから手を洗おうとしました。フランス人の技師ボエルさんが石けんを貸してくれました。油の汚れがきれいに落ちたので、私は驚きました。ボエルさんに石けんの作り方を学ぶことにしました。日本はたくさんの石けんを輸入していました。私は自分で石けんを作ろうと思いました。



げんざい みなみ くまんせいちょう
現在の南区万世町にあった石けん工場



せっ がた
石けん型

よこはまかいこう しりょうかんぞう
横浜開港資料館蔵

つつみ いそ え もん
堤 磯右衛門

てんぽう ねん
1833 (天保4) 年

いそごむら　　う　　　　　　　　　　いえ　りょうし　　あみもと
磯子村で生まれました。家は漁師の網元です。

1873 (明治6) 年

がつ
3 月

み よしちょう ちょうめ せつ つく こうじょう つく
三吉町4丁目に石けんを作る工場を作りました。

がつ
7月

せんたくせつ
洗濯石けんが できました。

1874 (明治7) 年

けしょうせつ
化粧石けんができました。

1878^{めいじ}（明治11）^{ねん}年

おし げい ゆ せつ
虫よけのための鯨油石けんが できました。

1879 (明治12) 年

しおみず つか かいすいせつ
塩水でも使える海水石けんが できました。

1881^{めいじ}（明治14）^{ねん}年

こ れ ら よ ほう せきたんさんせつ
コレラを予防する石炭酸石けんが できました。



① パン



あめりかじんぱんや
「アメリカ人パンを焼く図」

よこはまかいこうしりょうかんぞう
横浜開港資料館蔵

まんえんが ん ねん うつ み へい き ち に ほ ん は じ
1860（万延元）年、内海兵吉が日本で初め
てパンを焼きました。

ふ ら ん す ぐ ん か ん こ っ く な ら つ ぎ
フランスの軍艦のコックから習いました。次の
とし が い こ じ ん ぐ っ ど ま ん ぱ ん や ひ ら
年に外国人のグッドマンがパン屋を開きまし

ご ふ ら ん く ほ せ ろ ば ー と く ら ー く
た。その後、フランク・ホセ、ロバート・クラーク
み せ ひ ら う ち き ひ こ た ろ う く ら ー く な ら
も店を開きました。打木彦太郎はクラークに習

か れ め い じ な か ぱ ん や ひ ら
いました。彼は明治の中ごろ、パン屋を開きま
み せ い ま も と ま ち え い ぎ ょ う
した。その店は、今も元町で営業しています。

② 水道



の げ ざ か し た に ほ ん き ん だ い す い ど う さ い こ す い ど う か ん
野毛坂下にある日本近代水道最古の水道管

よ こ は ま う た ち
横浜は、埋め立て地がたくさんあり
い ど み ず し お み ず よ こ
ました。そのため、井戸の水は塩水や汚
み ず び ょ う き ひ と
れた水でした。だから、病気になる人が
い ぎ り す じ ん
たくさんいました。イギリス人の
ば ー ま ー す い ど う せ っ け い す い ど う
パーマーが水道の設計をして、水道を
つ く て っ か ん き ょ う す い は じ
作りました。鉄管による給水が始まり
ました。

③ ぎゅう 牛なべ



あぐらなべ
「安愚楽鍋」

よこはまかいこうしりょうかんぞう
横浜開港資料館蔵

ぶんきゅう ねん い せくま ぎゅう や
1862（文久2）年、伊勢熊が牛なべ屋
かいてん ねん たかはしおと
を開店しました。また1865年に、高橋音
まつ よしだ しんでん つつみ ぎゅうくし や や たい はじ
松が吉田新田の堤で牛串焼き屋台を始め
ました。その後、鉄なべを使った牛なべ屋を
かいてん
開店しました。

④ がすとう ガス灯



なか く かんない ほー る まえ
中区関内ホール前

めいじ ねん たかしま か えもん ふらん
1872（明治5）年、高島嘉右衛門はフラン
すじん ぎし ぶれぐらん いっしょ なか くほんちょうしょうがっ
ス人の技師プレグランと一緒に、中区本町小学
こう ばしよ がす こうじょう つく こうじょう
校の場所に、ガス工場を作りました。工場から
せきたん がす おく いま か な がわけんちょう おもてもん
石炭ガスを送りました。今の神奈川県庁の表門
ほんちょう ちょうめ どうろ にほん はじ
から、本町1～4丁目の道路まで、日本で初め
がすとう つく
てのガス灯を作りました。

⑤ てつどう
鉄道



よこはまてつどうかんじょう きしゃおうへんの ず
「横浜鉄道館 蒸 汽車往 返之 図」

よこはま し ちゅうおう と しょかんぞう
横 浜 市 中 央 図 書 館 蔵

めいじ ねん がつ よこはま
1872（明治5）年10月に、横浜と
しんばし あいだ うんてん はじ
新橋の間に運転が始まりました。

よこはま しんばし あいだ き
そのころは、横浜と新橋の間の29キ
ろ ぶん はし
ロを53分で走りました。

いちにち おうふく
一日に9往復しました。そのころの
よこはまえき いま さくらぎちょう
横浜駅は、今の桜木町にありました。

⑥ ばしゃ
馬車



よこはましょうかんとんしゅうどう の ず
「横浜商館天主堂ノ図」

よこはま し ちゅうおう と しょかんぞう
横 浜 市 中 央 図 書 館 蔵

かいこう ご きょりゅう ち がいこくじん ばしゃ の
開港後、居留地の外国人は馬車に乗って
ひとびと おどろ
いました。人々はとても驚きました。

い じん ばしゃ うま ひ ぐるま
それを「異人馬車」や「馬引き車」など
よ めいじ ねん しもおか
と呼びました。1869（明治2）年、下岡
れんじょう しょうにん けいひんかんのりあいばしゃ はじ
蓮杖などの商人が、京浜間乗合馬車を始
めました。

⑦ とこや



なか く やましたこうえん ざん ぎ り あたま きねん ひ
中区山下公園 ザンギリ 頭 の記念碑

1869（明治^{めい じ}2）年^{ねん}ごろ、小倉^{お ぐら}虎吉^{とら きち}ら

が外国^{がいこく}人居^{じん}留^{きゅう}地^ちで始め^{はじ}めました。はじめ、

ひとびと かみ き
人々は髪^{かみ}を切るのを いやがりました。学^{がく}

せい やくしゃ かみ き い
生^{せい}や役者^{やくしゃ}しか髪^{かみ}を切^きりに行^いきませんでしたし

た。その後、断髪^{ご だんぱつ}令^{れい}が出^でました。それで、

とこや に、た^{ひと}く^いさんの人^{ひと}が行^いきました。

⑧ てつ はし 鉄の橋



なか く かんないえきちか
中区 J R 関内駅近く

1868（明治^{めい じ}元^{がん}）年^{ねん}、日本^{に ほん}で初^{はじ}めて鉄橋^{てつぎょう}

ながさき
が長崎^{ながさき}にできました。くろがね^{くろがね}ばし^{ばし}です。

よこはま い ぎ り す じ ん ぎ し ぶ ら ん と ん よ し だ ば し
横濱^{よこはま}にイギリス人^{い ぎ り}技師^{ぎし}ブラン^{ぶ ら}トン^{と ん}が吉田^{よ し}橋^{だ ば し}

つく に ほん は じ と ら
を造^{つく}りました。これは日本^{に ほん}で初^{はじ}めてのトラ

す こう ぞう は し て つ せい か ね は し よ
ス構造^{す こう ぞう}の橋^{は し}です。鉄製^{て つ せい}で「カネ^{か ね}の橋^{は し}」とも呼

びました。

ようごせつめい
用語説明

ペリー かんたい

●ペリー艦隊がやってきた

艦隊	かんたい
ぐんかん 2 せき い じょう かいぐん あつ 軍艦が2隻以上の海軍の集まり	
開国	かいこく
がいこく こうりゅう ばうえき はじ 外国と交流や貿易を始めること	
庶民	しょみん
し みん 市民	
測量	そくりょう
き かい き ぐ つか ち ひょう きょり めんせき はか 機械や器具を使って、地表の距離やかたち、面積を測ること	
鎖国	さこく
がいこく こうりゅう ばうえき 外国と交流や貿易をしないこと	
幕府	ばくふ
ぶ し しゃかい せい じ おこな 武士の社会で政治を行うところ	
将軍	しょうぐん
ばく ふ なか いちばんうえ ひと 幕府の中で一番上の人	
もてなし	
きゃくさま よろこ お客様が喜ぶように、いろいろなことをすること	

和親条約	わしんじょうやく
がいこく 外国と した 親しく こうりゅう 交流する じょうやく ための条約	
締結	ていけつ
じょうやく 条約を むす 結ぶこと	
応接所	おうせつじょ
きゃくさま お客様と あ 合う ばしょ 場所	
漂流民	ひょうりゅうみん
ふね 船が なが 流されて、 て 自国に かえ 帰れない ひと 人	
修好通商条約	しゅうこう つうしょう じょうやく
ばうえき 貿易をする じょうやく ための条約	

● あんせい 安政6年 ねん 6月 がつ 2日 ふつか ～ よこはまかいこう 横浜開港 ～

開港場	かいこうば
かいこう 開港する ばしょ 場所	
大老	たいろう
え 江戸幕府で、 しょうぐん 将軍を たす 助ける しごと 仕事をする なか 中で いちばんうえ 一番上の ひと 人	
朝廷	ちやうてい
くんしゅ 君主が せいじ 政治を おこな 行う え ところ。江戸時代は てんのう 天皇が せいじ 政治を おこな 行った きやうと 京都にあった	

商船	しょうせん
ぼうえき おこな ふね 貿易を行 う船	
旧暦	きゅうれき
めいじ じ だい まえ つか こよみ 明治時代より前に使っていた 暦（カレンダー）	
関門	かんもん
とおる きょ か ひつよう そこを通るのに許可が必要なところ	
奉行所	ぶぎょうしょ
ぶ し じ だい やくしょ 武士の時代の役所	

●もののはじめは横浜よこはまから

開港	かいこう
みなと がいこく ぼうえき 港を外国と貿易できるようにすること。 がいこく ぼうえき 外国との貿易をするために、 みなと 港を かいほう 開放すること	
製鉄所	せいてつじょ
てつ つく こうじょう 鉄を作る工場	
技師	ぎし
せんもんてき ぎ じゅつ も し ごと ひと 専門的な技術を持って、仕事をしている人	
輸入	ゆにゅう
がいこく もの か 外国から物などを買うこと	

網元	あみもと
じぶん ふね あみ も 自分の船や網を持っていて、 漁 師の中で上の人	
鯨油	げいゆ
クジラからとった 油 ^{あぶら}	
石炭酸	せきたんさん
フェノール（消毒剤 ^{しょうどくざい} などの原料 ^{げんりょう} ）	
軍艦	ぐんかん
せんそう ふね 戦争のための船	
埋立地	うめたてち
うみ かわ つち う りく ち 海や川を土で埋めた陸地	
居留地	きよりゅうち
ぼうえき おこな がいこくじん す ゆる と ち 貿易を行 うために外国人が住むことを許された土地	
乗合馬車	のりあいばしゃ
うま くるま ひ ひと の くるま いま 馬が車 を引いて、たくさんの人が乗る 車。今のバスのようなもの	
断髪令	だんぱつれい
き かみ みじか めいれい ちょんまげを切って髪を短くする命令	
トラス構造	とらすこうぞう
てっきょう つく しゃしんさんしょう 鉄橋を造るときのかたちのひとつ（写真参照）	

あとがき

この冊子は 文化庁：平成 24 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育実践プログラムの委託を受けて、**横浜市教育委員会作成「わたしたちの横浜」**を外国につながる小学生中学生が理解できるように、わかりやすく書き変えました。作成に当たり、横浜市教育委員会、横浜開港資料館、横浜中央図書館の多大なご協力をいただきました。合わせて感謝申し上げます。

コーディネーター：辻 雅代

書き換え担当：地球っ子教室（小河千咲子・小林節子・小林とも子・小山いずみ・辻雅代・廻谷朋美）

【連絡先】

特定非営利活動法人 地球学校

地球っ子教室 担当理事 辻 雅代 E-mail : chikyu-co@chikyu-gakko.org

- ◆事務所 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1 - 2 - 1 地球市民かながわプラザ 1 階（あーすぷらざ）
- ◆NPO法人 地球学校 ホームページ <http://www.chikyu-gakko.org/>
- ◆NPO法人 地球学校 ブログ <http://blog.canpan.info/chikyu-gakko/>

【出典】

『わたしたちの横浜 横浜市小学校用副読本 2011 年度版』

社会科・理科・『横浜の時間』副読本

横浜市教育委員会（平成 23 年 6 月 2 日第 3 版発行）より書き換え

